

令和元年度あまみ地域づくり褒賞被表彰者功績概要

【褒賞】

(順不同, 敬称略)

	団体名	所在地	功績概要
1	昇 睦朗	奄美市笠利町	昇氏は、奄美市土地改良区設立当時(H11)から監事として土地改良区運営等に携わり、平成23年12月からは、土地改良区理事長に就任され、奄美市笠利町の畑地かんがい推進や改良区の職員指導・運営に尽力を注がれた。 令和元年12月をもって勇退されるが、長きにわたり土地改良区役員として奄美市の農業振興を支援されるなど多大な貢献を行った。
2	元井 孝信	奄美市住用町	元井氏は、奄美大島の基幹品目である「たんかん」を中心に規模拡大を図るとともに、近年、推進している中晩柑の新品種「津之輝」をいち早く導入し、実証ほ設置の協力を行うなど、当地における同品種の栽培技術確立に積極的に取り組んでいる。 JAあまみ果樹部会において部会長等を歴任し、奄美大島の果樹産地を牽引してきた。 平成8年度に鹿児島県指導農業士に認定され、地域の新規就農者や青年農業者の育成に貢献してきた。 平成29年に奄美市教育委員に任命され、農業以外の分野でも幅広く地域へ貢献している。
3	奄美市認知症の人と家族と支援者の会 まーじんま	奄美市名瀬	自身が親などを介護した経験を元に、同じ思いや経験をしている有志が集まって、平成26年度に「奄美市認知症の人と家族と支援者の会まーじんま」が設立されて以来、認知症高齢者本人や家族に対する支援を行っている。 また、地域住民の認知症に対する理解を深めるための例会、カフェ、広報活動等を実施し、地域に介護者同士のつながりをつくり支えとなる場を提供することで、認知症ケアの質の向上を図り、安心して暮らせる地域づくりに多大なる貢献をしている。
4	吉玉 誠一	伊仙町伊仙	30年程前に徳之島に移住し、コーヒー栽培を開始。苦難の中、独自で風土に適した栽培方法の模索を行っている。島内における栽培の普及活動を行い、平成21年度には、「徳之島コーヒー生産者会」を発足し、会長の重責を担い続けている。生産者も増加し、10種類におよぶ多種の品種が栽培され、国産コーヒーの生産地としての地歩を固めていく中心的な存在となっている。 また、コーヒー栽培のほかキャッサバ(タピオカ)等の栽培も意欲的に取り組んでおり、地域活性化に対する情熱は他の範とするところである。
5	一般社団法人 「Emore(いもーれ)秋名」	龍郷町秋名	当該団体は、龍郷町の秋名・幾里地区において、子育て世代を呼び込み、にぎやかな集落づくりを目的に、龍郷町の地域おこし協力隊で活動していた村上氏が住民に呼びかけ、平成30年11月に設立された。 空き家を活用した民泊施設「GAMA屋(がまや)」「どうぬ屋」をオープンし、観光客などに集落の文化や暮らしぶりを知ってもらう体験型観光をめざし活動している。 団体の活動や地区住民の取組により、若年層のUターン移住者が増加するなど、地域の活性化に大きく貢献している。
6	特定非営利活動法人 ねりやかなやレジデンス	和泊町和泊	当該団体は、遊休不動産の流動化を促進し、移住希望者・滞在希望者に住まいを提供する環境を整えることにより、地域経済活動に貢献することを目的に佐藤氏・山腰氏を中心に平成29年に設立された。 農業アルバイトが滞在できる住まい「和泊ドミトリーあぐり」のオープンを皮切りに、田舎での暮らしを体験できる「しま暮らし体験ハウス『なかほ』」や「まっちゲストハウス」を開設し、奄美に居住・滞在する希望者にリフォームした空き家などを提供してしている。 また、県・市町村と協働し、奄美における空き家対策、移住・定住対策に取り組み、過疎が進む奄美の島々の活性化に大きく貢献している。